

報告

ゼミナールにおける Web ツールの活用

The Web Application for the Collaboration in Seminar

藤本 孝一郎*

FUJIMOTO, Ko-ichiro*

概要:短期大学のゼミナールで Web 上のコラボレーションサイトを利用したグループ学習の新たな試みを実践した。演習授業の支援・調査に、Web サイト上のドキュメント・サービスを活用し、共同作業の効果を高めた。

1. はじめに

従来より情報技術を活用した共同作業による授業実践を進めてきた。短期大学のゼミナールでの過去の実践では、Web ツールを活用し共同作業をするには種々の問題があった。統合のための後処理や、進行過程を即時に反映しながら相互に理解深めてゆくこと等は困難であった。そこで昨年度よりも一歩進んだ Web 上のアプリケーション・ツールの活用を考えた。

2. 目的と方法

2.1 目的

短期大学のゼミナールにおいて教養・情報リテラシーの学習支援のため、Web 上のアプリケーション利用サービスによる共同作業への活用を試みた。

従来のブログを活用した実践で、共同文書を作成するには、何らかの後処理が必要で負担となった。また進行過程の全体を即時でみることはできず、統合文書の形成状況を把握しながら、各自の理解を深めることや制作進行の調整はできなかった。そこで Web サイト上のアプリケーション利用サービスを活用し、ゼミナールの学習・調査に関する統一テーマの下に、共同作業をしながら統合し、即時に把握できる手法を実践した。

2.2 環境と準備

2.2.1 実施環境

利用システムは城西大学のコンピュータ教室(WindowsXP)を利用した。Web 接続可能な LAN 小教室で15人のゼミナール1クラスを対象とした。ドキュメント・サービスについては、無料

*城西短期大学 ビジネス総合学科

で公開されている Google サイトを利用した。また例年と同様に。教員用の Web 上にグループフォルダを作成し、提出データ領域、データ交換領域とした。

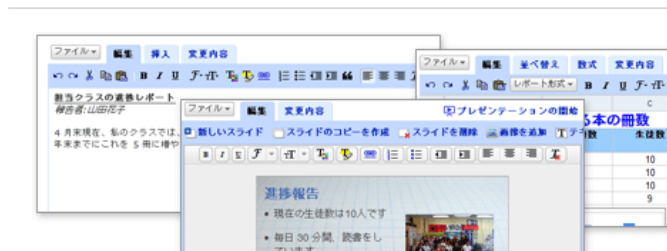


図 1.ドキュメント・サービスの例

2.2.2 サイト環境

ドキュメント・サービス・サイトは Web 上の無料サイトを利用した (Google Docs)。サービス提供ページでは文書・表計算、プレゼンテーションをオンラインで作成・編集・保存が可能である。ファイルは共有が可能で、編集・閲覧権限をコントロールできる。またリアルタイムで共同で編集可能であり、複数人が同じドキュメントを同時に見たり、一斉に編集することができる。基本的な編集機能 (箇条書き、並べ替え、表、画像、コメント、数式、フォントやスタイルなど) を有している。ほぼローカルシステムで、太字や下線付き、フォントの変更、数値の書式設定、表セルの背景色の設定やファイルのセキュリティ管理が可能である。さらにファイルのアップロードも可能で (ファイルタイプ: DOC, XLS, ODT, ODS, RTF, CSV, PPT) 他のアプリケーションで作成したファイルを、取り込むことができる。

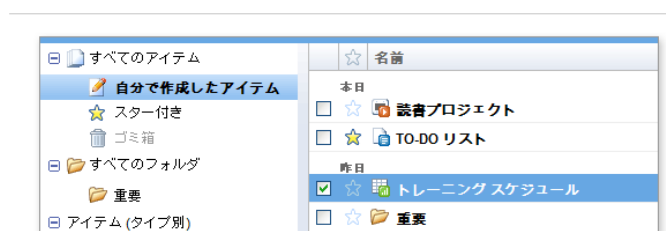


図 2.ファイル管理画面 (Web 上サイト)

3. 実践

3.1 概要

本年度も、2 年次生のゼミナールのため前期と後期で作業を大きく分けた。前期は、1 年次のプレゼンテーション技術の復習と反省からはじめ、小論文作成をめぐる調査や文献検索およびアウトライン等の基本技術の解説を内容とした。後期は MS-WORD のアウトライン機能を利用し

た小論文制作を中心に、Web 上のドキュメントサービスを利用し、小論文のアウトラインに関するテーマで各人が共同作業を実施した。前年の反省から、本年度は、4 週経過ごとに調整日を用意し、各人ごとの作業確認を行い、適宜進度のばらつきを調整した。今年度は Yahoo のブログサイトとともに Google のウェブサイトを利用した。授業進行は週 1 日 1 時限で課題を提示し質問・指導に応える体制をとり、各授業期間で一定の目標設定を行い運用した。

3.2 進捗

前期・後期はじめに授業方針・学習論点を提示し、テーマおよび基礎知識等を確認した。

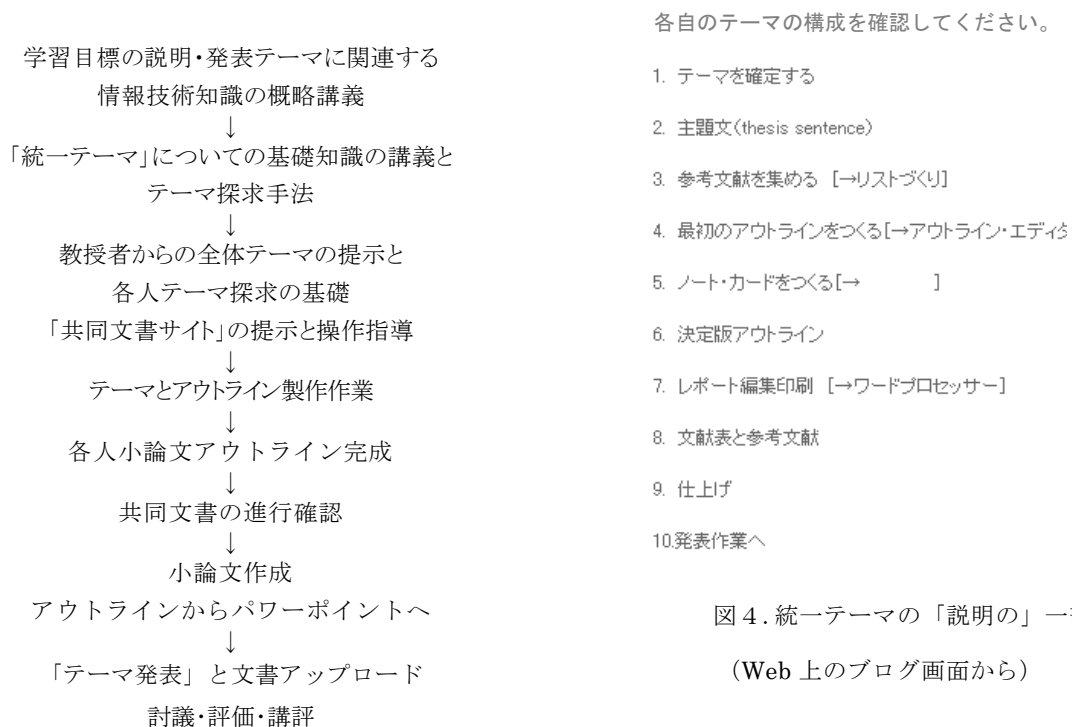


図 4. 統一テーマの「説明の」一部
(Web 上のブログ画面から)

図 3. 授業概観 (スライド画面から)

4. 結果と検討

学生の遅刻や出欠状況の影響は、Web 上での指示により進度の遅れの調整は、一部、習熟度への影響があった、無料サービスでの広告データへの配慮や、Web 上での著作権への理解への配慮はが必要であった、他に実践結果として例年と同様な点は次のとおり。

- ・教授者による WWW 知識の基礎能力と操作技術指導でのばらつきの調整への配慮。
- ・下準備 (ページ更新や、指示登録など) での教授者の負担。

本年度の実践結果の効果と考えるものを次にあげる。

- ・共同作業の進行過程を Web 上で確認でき、進捗が良好で共同作業へ到達した者は、全て強い興味を持っていた。
- ・共有ドキュメントに文字を同時入力する場合、ターンアラウンドタイムが大きくなる場合があり、画面表示の更新待ちによる進行の妨げとなることがしばしば見受けられた。
- ・最終的に統一テーマによる文書が形成されたが、共同作業進捗のばらつきのため、共同文書作業完成に至らない者も生じた。
- ・共同作業の進捗状況を即時に把握でき、次回への授業テーマを展開することが可能となった。

5. おわりに

年を追う毎に、各種 Web 支援サービス・ツールの一層の進展がみられる。今後もブログの少人数制授業への活用を、情報技術による共同作業という視点からより発展させたい。また次年度の情報システムの更新を受け、今年度の教訓を活かし、新しい教育手法の開発と、評価手法の探求を進めてゆきたい。

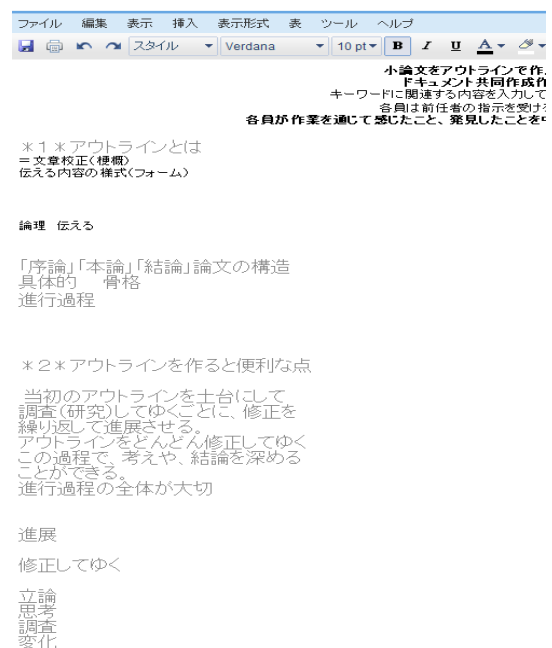


図 5.共同文書画面 (Web 上サイト)

【参考文献】

- [1] 総務省編「情報通信白書〈平成 20 年版〉」ぎょうせい (2008 年)
 - [2] インターネット協会「インターネット白書 2008 インプレス (2002 年)
 - [3] Amy Shuen (著), 上原(訳)「Web 2.0 ストラテジー」オライリー・ジャパン (2002 年)
- (www)http://www.google.co.jp/.http://www.opera.com/.
他

(Received March, 2, 2009)